

# 大東市立歴史民俗資料館 市民学芸員REPORT

第4号

大東市立歴史民俗資料館  
市民学芸員REPORT  
2012年  
6月16日発行  
第4号  
大東市立歴史民俗資料館  
大東市野崎3-6-1  
TEL 072-876-7011

## まが好き 人が好き 介護にフリマ 読みに聞かせ 体操クラブ 子育て支援

今号の「私は市民学芸員」は、市内のいろいろな場所での姿を見かける人。お聞きしてみると、このまちと、人とのふれあい大好きがそうさせている、黒川喜和子さんです。

黒川喜和子さん  
三箇6丁目在住

— 先日、野崎観音（慈眼寺）のホームペー  
ジで黒川さんの姿を  
拝見しました。

多分、野崎観音の中興の祖といわれる「江口の君」の縁日（君の市）でのことでしょう。毎月14日に開かれています。手作りのや骨董品などが販売され、私はそこで、手作りのおみやげやあられを出品しています。

— お客さんの層はどう  
いった方ですか？

「君の市」のときは、女性が多いですね。お話をしてみると、ほとんどが市外の方ようですが、時々、地元の小中学生が見学で来てくれることがありますよ。そ

んなときは地元の民話などの紙芝居をすることもあります。子育て支援センター

### わたしは市民学芸員



常に自然体でありながら パワフルに各方面でご活躍の黒川さん。

の活動でも紙芝居はします。子どもたちの反応がわかりますし、楽しいですよ。

— 紙芝居はなかなか難しいですね。どこでマスターされたのですか？

大東市の中央図書館は遠かった。「三箇文庫」と称して、自宅の一部を子どもたちに開放していました。

そのときから読み聞かせなどはしていました。子どもを対象に介護福祉士の仕事をしていたので、どう語りかけたらいのかは自然に身についたのではないのでしょうか。私の場合心掛けているのは一定の距離感です。もともと子どもと向かい合っていた職場でしたから、あまりべったりしてしまったり仕事の延長のような感覚になっちゃって、ついつい子どもに厳しくなりますし、自分自身にもゆとりがもたなくなっちゃいますから。

— そうですね。わかる気がします。

だからボランティア活動の初めの一步として、同じ福祉系でも高齢者向けの活動から入りました。福祉センターでの健康体操クラブです。始めて二〇年くらいになります。おかげで、ぜんそくや腰痛から解放されました。ずいぶん身体が楽になりましたよ。

次頁の下段につづく

### 活動三年目に入る 市民学芸員



市民学芸員とは、呼びかけに応募した市民がそのために必要な講座を受け、市民の立場から、大東市をよく知っていただくとうと活動する、大東市立歴史民俗資料館の専門スタッフです。

一昨年五月から本格的に始動して三年目を迎えています。その間、特別展「神社探訪・絵馬案内」、企画展「大東の風景」などに関わってきました。

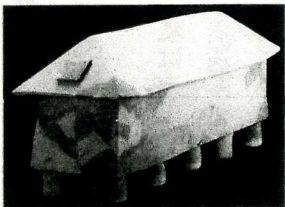
今回の特別展「堂山古墳群のひみつ」では、その資料館のリニューアル準備期間中から堂山古墳群についての研修を受け、四月から来館の皆さん方に、館内の「常設展」「特別展」および「堂山古墳群史跡広場」のご案内をさせて頂いております。

6月30日(土)まで

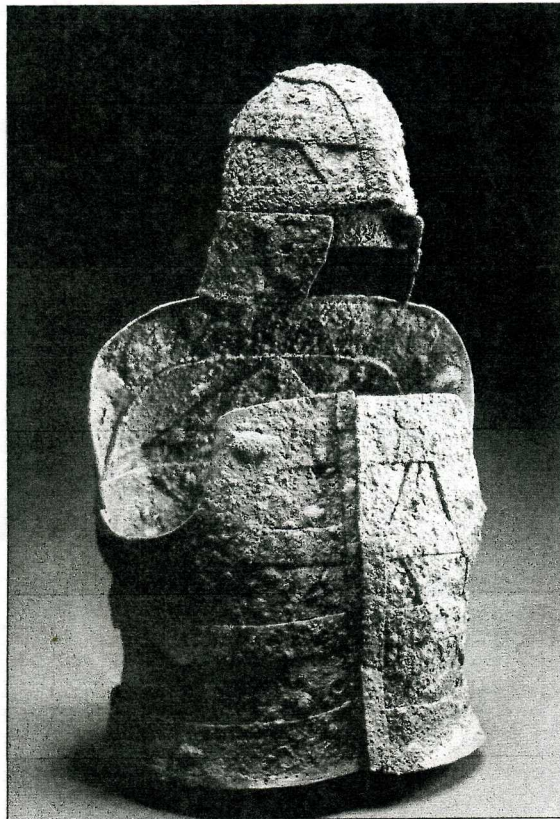
平成24年度特別展

# 堂山古墳群のひみつ

「堂山古墳群」は大東市寺川四丁目の小高い丘陵上にある、五世紀前半から七世紀中ごろにかけて築かれた八基の古墳群です。昭和四十四年から一号墳の発掘調査が始められ、昭和四十七年から丘陵全体について調査がされ、七基の古墳の姿が明らかになったのです。



3号墳から出土した陶棺



1号墳から出土した甲冑



発掘当時の堂山古墳群。

調査から四〇年ぶりの公開。特に一号墳から出土した展示室いっばいの遺物。甲冑・剣・円筒埴輪・初期の須恵器など、一六〇〇年前から地中に埋蔵されていたものが三階特別展示会場にずらり。展示期間は、六月三〇日までですので、未だご覧になっていない方はぜひ会場へ！

「特別展」の写真3枚は「堂山古墳群のひみつ」図録からのものです

前頁から続く

「ほかにはどんなことをしておいでですか。忙しいですよね。まさか？」



「ふれあい大好き」黒川さん

ボランティア活動は、できるだけ週一回だけくらいにし、自分に合うことを見極めるようにしています。「しんどい」と感じたり負担になるような活動はしない、そういう自分なりのルールを決めています。

——市民学芸員の活動も三年目です。もともと歴史が好きでしたから。大東市に引っ越してきた頃は、子どももまだ小さかつ

たので自転車に乗せてあちこち散策していました。まちなみも好きなんですよ。もちろんそこに息づく人たちも好きですし。

——最後に市民学芸員としての活動についてひとこと。

この活動を始めて、新しい発見があつて楽しいですよ。より深く歴史を知ることが以前よりこのまちが好きになりました。それから、人と接する機会が増えて、人と関わることももっと好きになりました。

常に自然体でありながらパワフルに各方面でご活躍の黒川さん。このまちと、このまちに住む人々が好きだという、キラキラと輝く眼差しに元気をいただきました。

聞き手 大西京子

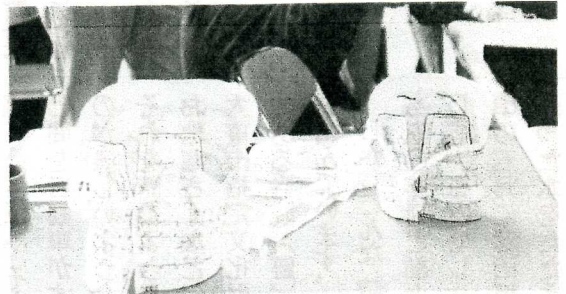
# もっと知りたいハンズオン

## 5/12 甲冑を着てみよう



「昔の人は重いものを着ていたんだなあ。お父さん大丈夫？」

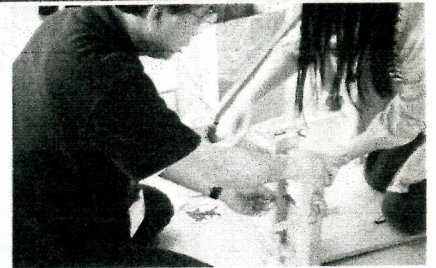
「常設展示リニューアル記念イベント」として、資料館にもっと親しんでいただこうと、子どもたちのために5回のハンズオンを催しました。



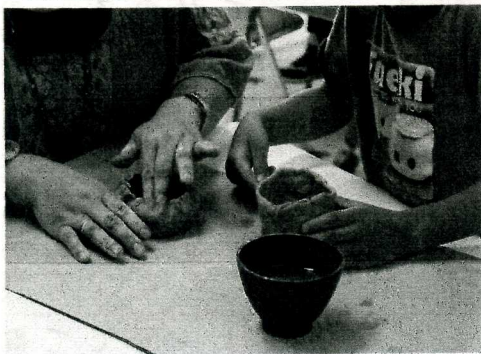
紙でミニチュア冑を作り、構造を学びます。

## 5/26 綿から糸をつくろう

「綿くり機」で「綿」の中にある種を取り除きます。

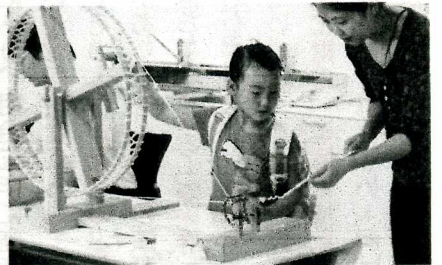


## 6/2 土器に模様をつけよう



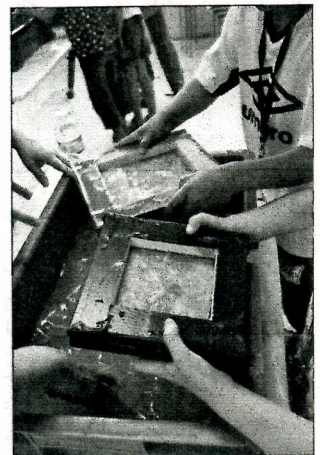
まず土器を作ってから模様をつけます

種を取った綿をほぐし「糸車」で糸を引きます。



## 6/9 古文書探偵になろう

こうぞ原料を使って紙をすきます



「綿から糸を作ろう」の会場風景



5回目のハンズオン「地域ものを探せ」は6月16日におこないました。



# みんなであちこち

## だいとうとその周辺

大東市龍間へ  
心合寺山古墳へ



八尾市にある「心合寺山古墳」の見学は皆で二年前に行ったことはありましたが、しかし同じ場所を巡っても、時がたればまた違った発見があるでしょう。「心合寺山へ行くのか」との呼びかけに急な計画に拘わらず一〇人も参加しました。みんな同じ思いだったのでしょう。

古墳時代中ごろ、約一六〇〇年前に築造された、その当時の河内の王が葬られたという前方後円墳の全貌が、「しおんじやま古墳学習館」と、よく整備されている全長一六〇mの古墳とその周辺を

### 八尾市 心合寺山古墳周辺ウォーク

歩くと、わかりやすく体感できるし、なによりも私などのようなものでも理解しやすいのがあります。それは、それにこの二年半の間に、市民学芸員として文化財に接し、いろいろなことを聞いてきているお蔭もあるのです。

「心合寺山古墳」はわが町の「堂山一号墳」とはさすが規模の点で違い、「心合寺山」が河内の「支店長」クラスなら、「堂山」はその北の部分を担当する「部長」クラスといえるでしょうか。

規模が違うのは、整備の仕方にもあります。わが「堂山古墳群」とその発掘品はすべて、四〇年の間大阪府が管理・所有していました。しかし今回、古墳の現地は、府から移管され、市の指定史跡となりました。これか

ら市民により親しまれるよう整備されることを期待し、来館されたかたに直接接してきた体験も生かし、希望も出していきたいものです。

次に私たちは、一部生駒山の十三峠に至る坂道をたどって、大阪経済法科大学構内に、本物そっくりのように建てられて

いる、好太王（広開土王）碑を見学しました。好太王碑というのは中国の北朝鮮との国境近くにある、高さ六・二mの碑で、四一四年（堂山一号墳築造の頃か）に建てられ、その四周に約一八〇〇字の「漢字」が刻まれているもので、そこには四世紀末の「倭」の朝鮮への進出や、大和政権の成立に関する記述も刻まれ、四・五世紀の東



松井健一さん作成の当日の資料です（部分）  
原図は55cm×90cmですが右半分をご紹介します  
**松井さんの話**  
「好太王碑と七支刀の資料を調べているとき、ふと小学生の時、朝顔の観察記録を壁新聞で発表したことを思い出し、童心に戻って手書きの壁新聞方式の説明書を遠足気分で作ってみました。かたい話も少しは楽しくなるのでは……」

アジアの歴史を解く重要な資料とされているものです。その碑を見ながら、今回の見学を企画された一人の松井健一さん手作りの「壁新聞」を「好太王碑」の前で見せていただいたので、ここではそれを別に紹介させて頂きません。

その他、愛宕塚古墳、神立地藏堂、熊野神社、薬師石佛などを訪ねたことを付記しておきます。日本にまだ文字の無い時代、物言わぬ「堂山一号墳」築造前後の状況証拠を訪ねて歩いた一日でした。



好太王碑レプリカの前で、松井さんの壁新聞を持ってカメラに収まる一同。シャッターは学生さんにお願ひしました。

中西昭治 記

